

わくわく元気！ 明日をつくる老人クラブ 仲間への呼びかけ

令和 7 年度 全老連政策委員会・幹事会

「老人クラブ活動の活性化に向けて」中間報告



のばそう！健康寿命、担おう！地域づくりを
公益財団法人 全国老人クラブ連合会



はじめに

- 老人クラブは、「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」をメインテーマに、高齢者が身近な仲間と支え合い、安心して暮らしやすい地域づくりの取り組みを進めています。
- 老人クラブは、老人福祉法第 13 条に「老人福祉の増進のための事業を行う者」として位置づけられています。地域における孤独・孤立への対応や、認知症への理解と共生が重要な課題となる今、仲間と集い、笑い、互いに支え合う老人クラブ活動は、誰もが住みやすい地域づくり、地域共生社会の実現に向けた意義ある活動となっています。
- 令和 6 年に実施された厚生労働省の調査研究事業では、老人クラブ活動について、行政だけではなくなかなか手が届かない地域の細かなところにまで浸透しており、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境をめざす「地域包括ケア」の取り組みを進める上でとても重要であると評価し、市区町村に対して、老人クラブ活動を支え、連携を進めるよう呼びかけています。
- 一方、今、私たち老人クラブは、さまざまな課題を抱えています。近年の老人クラブは、会員の高齢化や後継者の不足などにより、会員数やクラブ数の減少が続いています。
- より良い社会づくりに向けて歩んできた私たち老人クラブは、次の世代に活動を引き継ぐためにも、老人クラブの存在や楽しい活動を地域の高齢者に伝え、参加を広げていくことが求められています。
- そのためには、老人クラブの仲間一人ひとりが楽しみながら活動に参加し、その魅力や意義を地域社会へ発信していくことが不可欠です。それは新たな仲間とつながり、活動を充実していくことにつながります。
- 「老人クラブがあるから、この町は元気だ」。そう言われるような活動を全国の仲間と一緒に創っていくために、この呼びかけを参考にしてください。

この中間報告は、これから 1 年間をかけて、多くのみなさんの協議と意見交換をふまえ、最終報告としてまとめてまいります。



目 次

仲間への呼びかけについて.....	2
-------------------	---

第 1 章 老人クラブの仲間・リーダーのみなさんへ

老人クラブ活動の楽しさと魅力を伝えよう

ポイント 1 想いを伝える	老人クラブの楽しさを、私たちの言葉で語ってみよう・・・4
ポイント 2 活動を工夫する	「ゆるやかに・楽しく・地域とともに」が継続のコツ6
ポイント 3 次世代へつなぐ	若手を迎え、次世代にバトンをつなごう8
ポイント 4 無理なく続ける	形を変えても大丈夫、無理なく続けよう10
ポイント 5 広報の力	活動の「見える化」で元気な老人クラブに12

私たちが築いてきた地域共生社会を、より豊かにするために

ポイント 6 制度活用	制度を使って、私たちの活動をより豊かにしよう.....14
ポイント 7 行政との協働	行政と手を取り合い、暮らし続けられる地域をつくろう・・・16

第 2 章 老人クラブを支える市区町村老連のみなさんへ

1. 市区町村老連は、老人クラブと地域をつなぐ要(かなめ)
～仲間を支え、地域の暮らしを豊かにする～19
2. 仲間へ心でつながる手助けをしよう
～老人クラブに寄り添い、ともに汗をかく関係づくりを～20
3. 補助金を「活動の応援団」に変えよう
～老人クラブの活動が輝き続けるために～21
4. 「どのような老人クラブでありたいのか」を話そう
～話し合いを通じて、老人クラブの未来を描く(名称について)～23



仲間への呼びかけについて

読んでいただきたいみなさん

- ・ 老人クラブ会員のみなさん(以下、仲間)、リーダーのみなさん
- ・ 老人クラブを支える、市区町村老連、都道府県・指定都市老連(事務局)のみなさん
- ・ 地域のお年寄りの幸せを支える、行政(自治体)で働くみなさん
- ・ 暮らし続けられるまちづくりを進める、社会福祉協議会などの関係団体のみなさん
- ・ まだ地域の活動にかかわっていない、シニア世代のみなさん

目 的

- ・ 地域で活動する老人クラブの仲間の声で、仲間に限らず、地域の高齢者のみなさんに老人クラブの魅力を伝え、老人クラブへの参加を広げます。
- ・ これら取り組みを通して、仲間自身により、老人クラブ活動の活性化を進めるための参考として役立てていただきます。

構 成

第1章 老人クラブの仲間・リーダーのみなさんへ

老人クラブの仲間、単位老人クラブのリーダーのみなさんに向けた呼びかけです。

老人クラブ活動の楽しさと
魅力を伝えよう
ポイント 1～5

私たちが築いてきた地域共生社会を
より豊かにするために
ポイント 6～7



老人クラブ活動をサポート

第2章 老人クラブを支える市区町村老連のみなさんへ

単位老人クラブを支える市区町村老連のみなさんに向けた呼びかけです。

第 1 章

老人クラブの仲間・リーダーのみなさんへ

ポイント1 想いを伝える

老人クラブの楽しさを、私たちの言葉で語ってみよう

みなさんへ

○ 「楽しさ」や「支え合い」の良さを確かめ合おう

老人クラブを続け、広げていくために大切なのは、老人クラブの活動の根っこにある「楽しさ」や「支え合い」の良さを、仲間どうしであらためて確かめ合うことです。

○ 楽しむ姿が、一番の PR

仲間自身が活動を楽しみ、その姿を地域の人たちが見ることが、老人クラブへの参加を呼びかける一番の PR になります。

○ 私たちの言葉で語ってみよう

活動の良さを、参加する仲間の思いや、自分たちの言葉で伝えてみませんか。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ 活動の「楽しさ」を話し合いの出発点に

老人クラブを制度から見るのではなく、「楽しい活動」「支え合い」として捉え、次の世代につないでいきましょう。「こんなに楽しいのか」という活動の良さが出発点です。

○ 自らが楽しく活動している姿が、一番の PR

仲間自らが「楽しい」と思わないと、新しい人は加わりません。まずは仲間自身の「自分たちがいきいきと楽しい」姿を発信していきましょう。楽しい場へのお誘いや招待という気持ちで、「みんなで一緒に行こう」と声をかけ、実際に動いている姿を見てもらうことが仲間を広げます。

リーダーも楽しくいきいきと活動し、その先に社会への貢献があるという思いを忘れずに進めていきましょう。

○ 集まること、話すこと、それはとてもかけがえのないこと

青森県老連の調査では、老人クラブ活動で楽しさを感じる一番は「日帰り旅行」、次いで「親睦会」でした。顔を合わせ食事や会話を楽しむことが、何よりも楽しいひとときになっています。「集まること」や「仲間とのおしゃべり」は、それだけでとてもかけがえのない活動です。地道に見える活動も、秘めた魅力を持っています。

事例紹介 ～楽しさを大事にする活動～

* 掲載事例は、令和 7 年度全老連活動賞受賞団体等を紹介しています

♪ 会員自身が楽しく活動している姿を伝える

志賀須香クラブ（愛知県岡崎市）

カラオケ(歌うこと)を入口に、スポーツ、体操、音楽、手芸など活動のメニューを増やし、他クラブとの交流を取り入れ、会員のニーズを満たすことに成功して、7 割の会員が何らかの活動に参加しています。入会者も増えました。

♪ 集まること、会話をすることで交流が深まる

上大沢さつきくらぶ（静岡県下田市）

毎週月曜日は、グラウンド・ゴルフやボッチャを楽しみ、月 1 回の定例会では輪投げ練習を行っています。シニアスポーツの取り組みが外出のきっかけとなっています。また、地域に移住してきた方も参加され、交流が深まっています。

♪ 地域を思う会員の思いが魅力

吾平地区高齢者クラブ（鹿児島県鹿屋市）

昔から多くの参拝者が訪れる吾平山稜(あいらさんりょう)への山道の清掃活動を、昭和 42 年から地区のクラブが集まり、年に 3～4 回行っています。地域の方々や参拝者から喜ばれ、ねぎらいの言葉をいただいています。

♪ みなさんの老人クラブの「楽しさを大事にする活動」を探し、その活動を書き出してみよう

ポイント 2 活動を工夫する

「ゆるやかに・楽しく・地域とともに」が継続のコツ

みなさんへ

○ 気軽に参加できる場をつくろう

特別な技術や道具がいらないウォーキングや体操、コーラス、集まること自体を楽しむサロンなど、誰でもすぐに参加できる活動も重宝しましょう。

○ 「地域のため」をゆるく楽しもう

地域の困りごとを解決する活動は、仲間に「役に立っている」というやりがいと楽しさを生み出します。みんなで解決するという視点で、無理せず、ゆるやかに取り組むのがコツです。

○ 地域の活動は最高の PR

地域を豊かにする社会活動は、クラブの存在意義を高め、良い PR になります。仲間や地域の人が参加したくなるような、入りやすい工夫を検討してみましょう。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ 活動は身近なものから

単位老人クラブでの小さな地域の活動(サロン等)は、集まること自体が楽しみになるような場づくりが重要です。

専門的な知識や技術が必要なものだけでなく、ウォーキングや健康体操など、「身一つ」で参加できる活動も求められています。

○ 地域の困りごとは、地域と連携してみんなで解決する視点で

「地域の困りごとは、地域と連携してみんなで解決する」という視点で活動の形を少しゆるめ、やわらかく楽しむことも考えていきましょう。

例えば、電球の交換や家具の移動など、お年寄りの暮らしの困りごとなどの生活支援などは、地域の方々にも喜ばれ、クラブの PR にもつながっています。

○ 参加のハードルを下げる工夫を

ただし、「楽しむ」つもりで。もちろん「運営する仲間の荷が重くならないように」という点に気をつけながら、参加しやすくする工夫を考えてみてはどうでしょう。

現役世代向けに、土日活動したり、夕方に行くことも考えられます。

事例紹介 ～ひと工夫を進めて参加を広げる～

♪ LINE を使って情報交換、仲間づくり

品川寿会（東京都品川区）

会員が活動に参加しやすくなるように、毎月の活動計画表を配布し、情報交換がスムーズにいくように LINE を活用。活動に参加して友達をつくり、仲間の情報をもとに違う活動に参加する人が増え、仲間づくりにつながっています。

♪ 夜の活動を設けて参加者を広げる

池下・牛頭・逆川福寿会（静岡県掛川市）

月 3 回開催している健康体操クラブの開催時間を 14 時からの開催(1 回)と 19 時からの開催(2 回)にしています。開始時間を夜間に設定することで、日中忙しい人たちでも参加できる環境を整えています。

♪ 地域の困りごと解決と仲間の健康づくりを楽しく両立する

宝陽台宝寿会（茨城県つくば市）

自治会ができなくなった「公園清掃」と「防犯パトロール」を引き継ぎ、活動方法をアレンジして防犯パトロールを兼ねた公園のゴミ拾いを実施することにしました。約 3 キロのゴミ拾いとパトロールを兼ねたウォーキングは、地域の防犯・美化と健康づくりの一石三鳥です。

♪ みなさんの老人クラブの「ひと工夫を進めて参加を広げる」活動を探し、その活動を書き出してみましょう

ポイント 3 次世代へつなぐ

若手を迎え、次世代にバトンをつなごう

みなさんへ

○ 若手の仲間を広げることで、私も楽しく

若手世代(主に 60 歳代)を迎えるためには、迎える側の私たちが、「新しい取り組みで若手世代を呼び込もう」と心を一つにすることが重要です。定年後の新しい生活に寄り添った呼びかけや、若手世代の趣味や興味を通じた集まりも考えられます。

○ 次の時代を担う仲間は、地域が豊かになる鍵

新しくリーダーになる方々には、「何をすればいいかわからない」という不安を取り除くことが求められます。経験者が教え合う仕組みづくりも重要です。

「人を育てることが、地域の安心につながり、クラブの広がりにつながる」という前向きな気持ちで、老人クラブを続けていきましょう。高い志を掲げる必要はありません。「普段着姿で未来につなごう」「昨日あったことを明日も続けていく」という身近な目標で進めましょう。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ 若手世代が入りやすい「きっかけ」をつくり、寄り添う

今の 60 歳代のみなさんは、総じて地縁より趣味のつながりを重視します。こうした人々を取り込む思いで、定年後のふとした「心の隙間」に寄り添った声かけ方や、e スポーツやスマホ教室など、新しいツールを取り入れた活動が効果的です。これらは多世代交流や良い PR にもなります。「若手委員会」「女性委員会」などの組織づくりも一案です。

○ 次の世代を育てることは、より豊かな地域をつくること

今のリーダーが元気なうちから、次の人を意識し、時間をかけて人間関係を築くことが必要です。能登半島地震被災地では、活動を継続することが難しい状況のなかで、88 歳の会

長から 75 歳の会員へ粘り強くかかわることで、世代交代が進んだ事例もあります。

○ 次期リーダーの不安を和らげよう

役員交代の際は、役割を明確に伝えて負担感を減らしましょう。

学習の機会も、かけがえのないものです。全老連の「リーダー必携」を参考に、老人クラブの基本がわかる抜粋版をつくりクイズ形式の研修を行うなど、笑いを交えながら学ぶ工夫も行われています。学習意欲の高い人を巻き込み、助けてもらうのも良い方法です。

事例紹介 ～仲間を広げ、次世代を育てる～

♪ クラブの目的を伝えて担い手を増やす

八千代市長寿会連合会（千葉県八千代市）

会員が入会するとき、会長が一人ひとりと面談しています。入会理由を知り、クラブの目的や地域活動について伝えることが目的です。会員みんなにクラブの役割を理解して、活動を楽しんでももらいたいと考えています。

♪ 60 歳未満の方がかかわる仕組みをつくる

和楽会（東京都日野市）

地域の自治会と連携を図ることで、60 歳未満の方々に「ジュニア班」として地域行事の運営を担当してもらい、60 歳になったら老人クラブのシニア（正規会員）へとつながる流れをつくりました。老人クラブ役員の半数がジュニア班出身者となり、若手層の取り込みと後継者育成につながっています。

♪ 若手委員会が担う老人クラブの加入促進

シニア山口（山口市老人クラブ連合会）（山口県山口市）

加入促進に向けたポスターやチラシづくりを若手委員会が担当して、完成したポスターを公共施設などに貼ってもらいました。現在は、40～50 歳代のサポーター（準会員）募集のポスターやパンフレットを企画中です。

♪ みなさんの老人クラブの「仲間を広げ、次世代を育てる」活動を探し、その活動を書き出してみましょう

ポイント 4 無理なく続ける

形を変えても大丈夫、無理なく続けよう

みなさんへ

○ 活動をやわらかく見直そう

老人クラブの灯を次の世代につなぐためにも、活動が難しくなりつつある地域では、これまでの活動をそのまま続けるのではなく、自然と人が集まる仕組みや無理なく運営できる形など、仲間や関係機関と話し合い活動をやわらかく見直していきましょう。

○ 困ったときは頼ろう

自分たちだけで解決が難しいときは、市区町村老連事務局や行政の担当課へ相談してみてください。外部とつながることで、新しい活動のヒントがきっと見つかります。

○ できる限りクラブを続ける方法を考えよう

老人クラブの解散は、地域で培ってきたつながりの場が消えることです。できる限り活動を続ける方法を考えましょう。近隣のクラブや老連による応援など、地域の状況に応じて無理せずできる形を探しましょう。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ ゆるやかなつながりを持ち続ける

公民館のような「予約して集まる場所」だけでなく、空き家や自宅を活用した「ふらっと立ち寄れる場所(たまり場)」など、日常的なおしゃべりの場が自然な安否確認の拠点にもなります。こうした「ゆるやかなつながり」が、これからの地域活動の有効なモデルになります。

○ 「今まで通り」を変えてみる

豪雪や野生動物の影響など、地域の環境は変化しています。「昔からのやり方」にこだわらず、今の状況に合わせて活動内容や頻度、時期を柔軟に変えていきましょう。無理をせず、

自分たちが楽しめる形に変えていくことが継続のコツです。

○ リーダーの負担を減らすために

リーダーのなり手がいない原因の一つである事務作業(会計や補助金の申請等)を軽くするため、すべてを担当者が抱え込まず、作業内容をみんなに見えるようにして役割を分けたり、事務局に相談し、頼れる部分は頼ることも考えてみましょう。

事例紹介 ～地域の状況にあわせて取り組む～

♪ 同じ区内ならどの老人クラブにも加入できる

文京区高齢者クラブ連合会（東京都文京区）

文京区では、地域の高齢者(老人クラブ未加入者)は、自宅のある地域の老人クラブ以外に、参加したい活動を行っている区内の老人クラブに入会することができます。連合会は「クラブ体験事業」を年に3回開催しており、単位老人クラブは活動をPRする機会になっています。

♪ 地域の学びの場、機会を活用

本山町老人クラブ連合会（高知県本山町）

高知県立大学が地元で開催している公開講座「『夜學』大学は大人の学校プロジェクト」の共同主催団体として参画しています。講座の学習テーマを提案したり、会員や地域の高齢者に参加を呼びかけています。活動の機会が広がっています。

♪ 老人クラブのない地域の、高齢者の参加を考える

みやこ町老人クラブ連合会（福岡県みやこ町）

クラブが解散した、地域に老人クラブがない高齢者などが活動参加できるように、連合会(支部老連)の直轄クラブをつくり、県老連のスポーツ大会や支部老連が運営する木工や陶芸などの部活動に参加できる仕組みをつくっています。

♪ みなさんの老人クラブの「地域の状況にあわせた」活動を探し、その活動を書き出してみよう

ポイント 5 広報の力

活動の「見える化」で元気な老人クラブに

みなさんへ

○ 「知られていない」という危機感を持つ

地域には老人クラブの活動内容を知らない人が大勢います。老人クラブが知られていないことの現実を受けとめ、「老人クラブを知ってもらわなければ、クラブはなくなってしまう」という危機感を共有しましょう。

○ 外へ向かって積極的に発信

会報の発行で会員どうしの情報共有を行うことから始まって、対外的にも発信していく、そんな取り組みです。「いかに楽しさを見せるか」が肝心です。見せる場をつくるとともに、マスコミへの働きかけや、連合会のホームページ、SNS など活用し、老人クラブの「楽しさ」を地域や社会へ見せていきましょう。

自分たちだけで難しい場合は、動画づくりなどで学生や若者の力を借りるのも一つの方法です。いろいろな世代との触れ合いのきっかけにもなります。

○ 組織活動は健康長寿の秘訣

「老人クラブへの参加は健康に良い」というデータも、説得力の助けになります。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ 「何をしているか」をわかりやすく

活動内容を一言で伝えるのは難しいものです。会員全員が自分の言葉で説明できるように PR ポイントを整理したり、「わくわく元気」のようなキャッチフレーズを使ったりして、相手の心に響く伝え方を工夫しましょう。

○ デジタル活用と広報

ホームページや LINE など、できる範囲でデジタルの活用を始めましょう。高校生によるスマホ教室などは、交流だけでなくマスコミ注目度も高い PR の機会です。また、行政の広報担当やマスコミに、時には積極的にアピールしてみましょう。

○ 外部を巻き込み、体感してもらう

e スポーツや企業・学校との連携イベントなどで活動を「見える化」しましょう。

老人クラブ活動への参加が、健康寿命を延ばすとのデータや事例を活用するのも有効です。大学との共同研究や学会発表を通じて、老人クラブの活動が健康長寿に寄与していることが示されています。

参考資料：全老連作成「組織活動は健康長寿の秘訣 老人クラブの有効性が明らかに」（QR コードを読み込むと資料が表示されます）



事例紹介 ～広報で活動を「見える化」～

♪ 新しい広報媒体を使って活動をアピール

類家五丁目夢くらぶ（青森県八戸市）

「楽しければ人は集まる」をモットーに、多くの人に見てもらえるように YouTube や DVD など、新しい広報媒体も活用して老人クラブ活動を紹介しています。年齢や地域による加入条件を見直し、若い世代にもアピールしています。

♪ 地域の情報と仲間の情報が満載

藤江健寿会（石川県金沢市）

町の歴史や人物紹介、お笑い川柳など、地域や高齢者にかかわる身近な情報を掲載した会報を毎月作成しています。会報がきっかけとなってクラブの認識も高まり、会員数が6年間で約2倍に増加。入会者が絶えないクラブとなっています。

♪ 広報の鍵は「キャッチフレーズ」

阿倍野区老人クラブ連合会（大阪市阿倍野区）

区老連のスローガン、「入って良かった！仲間ができた！」を区民まつりや健康イベントなどの参加を通じて広めています。さらに、区報への活動情報の掲載、ケーブルテレビなどのメディアへの区老連行事の取材依頼など、さまざまな機会を通じてPRしています。

♪ みなさんの老人クラブの「活動が見える化」している取り組みを探し、その活動を書き出してみましょう

ポイント 6 制度活用

制度を使って、私たちの活動をより豊かにしよう

みなさんへ

○ 私たちが続けてきた「支え合い」が、今の時代の最先端

国が進める「住み慣れたまちで暮らす仕組み(地域包括ケア)」や「ともに生きるまち(地域共生社会)」という言葉ができるずっと前から、老人クラブは地域で声をかけ合い、支え合う活動を行ってきました。

○ 制度は「活動を助ける道具」

補助金があるから活動するものではありません。「やりたい楽しい活動」が先にあり、それを充実させるための道具が制度です。私たちの活動をより充実させていくために、使える仕組みがないか、仲間と一緒に学び、情報を得ていきましょう。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ 介護保険の仕組みなどが、私たちに追いついてきた

老人クラブが行っている活動は、介護保険の仕組みにある「介護予防・日常生活支援総合事業(通いの場)」と同じ役割を果たしています。私たちの活動が先にあり、制度が私たちに追いついてきたのです。「老人クラブの活動は、地域のお年寄りの幸せを進める力である」ことを行政に働きかけ、新しい予算や事業の活用をめざしましょう。

○ 「自らがやりたい活動」が先、応援(補助金や助成金)は「力水(ちからみず)」

老人クラブ活動は、補助金があるから行うものではありません。まず、自らがやりたい活動があり、自らで汗をかき、必要なものを出し合う「自助・主体的活動」がまず先にあり、それを続けるための手段として制度があるという意識を共有しましょう。

補助金は、そうした私たちの活動を後押ししてくれる「応援団」であり、活動を元気にする「力水」です。

○ 地域包括支援センターや専門職ともつながりましょう

地域包括支援センターや、地域の専門職と情報交換を行うことで、老人クラブだけでは気づけない地域の課題が見えたり、活動の幅も広がることもあります。制度を知らない会員のために、クイズなどで楽しく学ぶ機会を設けている仲間もいます。地域の専門職とつながり、仲間どうして楽しく学ぶことで、活動をより豊かにできる可能性が広がります。

事例紹介 ～制度を活用して、活動機会を広げる～

♪ 町長と懇談会を開催

きららクラブ河西（山形県川西町）

連合会では、年に一度、町長との懇談会を開催しています。令和7年度は、老人クラブの現状や活動報告をはじめ、町が運営するデマンドタクシーの利便性などについて高齢者の意見を伝え、意見交換を行っています。

♪ 同世代の支え手として活躍

フィオーレ和会（栃木県さくら市）

介護保険の一環として実施している「介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス事業 B）」に取り組んでいます。友愛訪問やゴミ出しなどの支援を実施。それぞれができることで支え手として活躍し、地域の互助に貢献しています。

♪ 認知症について自分事として考える

八幡が丘青葉会（広島市佐伯区）

地域ケア推進課の協力、社協の助成金の活用、地域包括支援センターとの連携を通じて、「認知症カフェ」を開設。認知症について学んだり、認知症を抱える方、家族の方も気軽に立ち寄れる地域の居場所として運営しています。

♪ みなさんの老人クラブの「制度を活用して活動機会を広げる」取り組みを探し、その活動を書き出してみよう

ポイント 7 行政との協働

行政と手を取り合い、暮らし続けられる地域をつくろう

みなさんへ

○ 書類よりも「笑顔」を見せる機会づくりを

行政の老人クラブ担当者は、書類や数字を見ることはあっても、みなさんが活動で笑い合っている姿を見る機会は少ないものです。

○ 招待して、ファンになってもらう

行事に担当者を招待し、「こんなに楽しくて役に立つ活動だ」と肌で感じてもらいましょう。それが理解を深める第一歩です。

○ 手を取り合って、地域の幸せを一緒につくる

介護予防や孤立防止、詐欺対策など、行政と協力して取り組むことで、地域のみんながもっと安心して暮らせる仕組みをつくる可能性が広がります。

リーダーの方へ ～活動のヒント～

○ まずは、老人クラブの活動を「体感」してもらう

行政の担当者は数年で異動するため、老人クラブの意義を知らないことがあります。行事に招く際は「今日は(老人クラブからの)要望書などは出しません」とハードルを下げ、挨拶だけで帰さず、最後まで活動に参加してもらいましょう。

「楽しさ」を肌で感じてもらうことが、老人クラブへの理解と支援につながります。

○ トップ(首長)への働きかけも

地域の活力に敏感な市長や町長へ直接思いを伝え、トップダウンで現場へ働きかけてもらうのも有効です。時には他の団体に働きかけ、協力を提案することで、協力し合えるきっかけや、相談できる関係につながる場合もあります。

○ 本音で話せる信頼関係を通じて協働を

行政の職員を交えた意見交換を行う際には、行政側の予算や事情にも配慮しつつ、本音で話せる場をつくりましょう。お互いの信頼関係をふまえ、手を取り合う関係（パートナーシップ・協働）のもとに、次のステップにつなげていきましょう。

事例紹介 ～行政との協働で豊かな地域をつくる～

♪ 補助金申請を電子化し、事務負担を減らす

藤沢市老人クラブ連合会（神奈川県藤沢市）

行政と連携し、単位老人クラブの補助金申請を電子化しました。さらに、パソコンやスマホ講習を開催して操作方法を学び、単位老人クラブ会長の事務負担の軽減と効率化につながっています。

♪ 地域包括支援センターとのつなぎ役

都ヶ丘シニアクラブ 都会（新潟県加茂市）

市の地域包括支援センターが主催する「集いの場」をクラブ行事に組み込み、認知症や介護の正しい情報を学習。関係者と連携し、困りごとを抱える会員を具体的な支援につなぐ「中継窓口」の役割を果たしています。

♪ 地域環境を守るパートナーシップ

木曽岬町シニアクラブ連合会（三重県木曽岬町）

「ふるさとを大切にする」。国土交通省、三重県、木曽岬町と連携し、「川と海のクリーン大作戦」として木曽川左岸堤防の一斉清掃を実施。行政と一体となって環境美化やマナー向上の啓発に取り組んでいます。

♪ みなさんの老人クラブの「行政との協働で豊かな地域をつくる」活動を探し、その活動を書き出してみましょう

第 2 章

老人クラブを支える 市区町村老連のみなさんへ

本章は、単位老人クラブと市区町村老連が互いに関心を持って支え合いつつ、
欠かせない存在として活動を進めていくためのヒントを記しています。

老連のみなさんはもとより、老人クラブの仲間もぜひご覧ください。

1. 市区町村老連は、老人クラブと地域をつなぐ要(かなめ) ～仲間を支え、地域の暮らしを豊かにする～

ポイント

○ 仲間を支える

市区町村老連は、各単位老人クラブの連絡調整や、広域的事業を行うネットワークの中心です。個々の老人クラブ活動を充実させ、参加する仲間一人ひとりの生きがいと健康づくりを支える役割を担っています。

○ 多様な団体や人々と協働して、地域の暮らしを豊かにする

市区町村老連は、仲間の「楽しい」に寄り添い、また、地域の困りごとを把握して老人クラブを行政や関係機関・団体とつなぎ、新しい取り組みを生み出すなど、仲間の幸せと地域を豊かにする活動をコーディネートする、かけがえのないサポート役です。

老人クラブを支えるヒント

◆ 老人クラブに寄り添い、悩みを受けとめ、孤独にさせない

老連は、日頃から老人クラブの仲間と会い、仲間や地域の情報を共有することで、仲間の悩みや地域の困りごとに寄り添うことができます。

「困ったときは老連に聞いてみよう」「老連に相談してみよう」という関係性を築くことが、老人クラブや仲間を孤独にさせない鍵です。

◆ 老連は、地域の暮らしを豊かにする重要な存在

国は、令和 5～6 年度に初めて老人クラブの現場の声を聞く調査研究を行いました。その結果、老人クラブは、地域共生社会の実現に向けて大切な地域包括ケアを進めるために、とても重要な存在であるとなりました。

老人クラブは、これまで長年にわたり、身近な生活の場で支え合いの取り組みを進めてきました。老人クラブの活動が先にあり、国の考えや制度が「地域共生社会の実現」としてやっと追いついてきたのです。

そのためには、さまざまな機関・団体、地域の高齢者との関係づくりやつながりが大切であり、その鍵は老連です。老連は、老人クラブに寄り添いながら、地域をつなぎ、地域の暮らしを豊かにしていくために欠かせない存在です。

2. 仲間へ心でつながる手助けをしよう

～老人クラブに寄り添い、ともに汗をかく関係づくりを～

ポイント

○ 仲間の悩みごとは「自分ごと」

老連は、老人クラブを支える要(かなめ)です。書類づくりだけでなく、老人クラブの困りごとを「自分たちの問題」として捉え、一緒に悩み、行動する姿勢を心がけましょう。

○ 人が変わっても、支援は途切れさせない

コロナ禍を経て、老人クラブの仲間は、活動にきめ細やかなサポートを必要としています。老連は、担当者が異動しても老人クラブに寄り添い続けられる体制を整えましょう。

○ 活動が困難になっても、再びつながることをめざして

一時的に休会や解散をする老人クラブがあっても、そこに「地域を支えたい」「つながりたい」という気持ちがある限り、形を変えて再びつながることは可能です。

「つながりたい」との想いを新たな形にしていくために、老連として寄り添っていきましょう。

老人クラブを支えるヒント

◆ リーダーの負担を減らす手助けを

老人クラブのリーダーにとって、会計や補助金申請は必要な作業ですが、一人で抱えると荷が重くなるものです。事務局がこれらの事務作業を支援する仕組みをつくることで、リーダーが「楽しい活動」や「仲間への声かけ」に力を入れることができます。

◆ 場づくり、情報共有、支援の働きかけ… 取り組みは多彩

予約が必要な施設だけではなく、いつでも仲間がふらっと立ち寄れる「たまり場(活動の場所)」を整えることも、老連として支援したり、行政に要望していききたいポイントです。

地域によっては、市区町村老連と単位老人クラブの間をつなぐ「地区老連(小地域)」の機能を強化し、情報を共有しやすくすることも、老人クラブ活動を活性化する鍵です。

行政に働きかけ、補助金を老人クラブ活動につなぐことも、老連の重要な役割です。

◆ 寄り添う「想い」をつなぐ

行政の担当者は数年で異動してしまいます。また、老連の体制によっては、事務局担当者の異動も例外ではありません。老人クラブの担当が変わっても、新しく担う方に老人クラブを知ってもらい、役割について理解し、共感をもってもらえる場を設けることで、老人クラブの歴史や価値をしっかりと伝え、老人クラブに寄り添う支援が続けられるようにしましょう。

3. 補助金を「活動の応援団」に変えよう

～老人クラブの活動が輝き続けるために～

ポイント

○ 補助金は活動を活かすもの

私たちの活動を、日本中が、そして行政が応援する仕組みである「補助金」は、活動を制限するものではなく、活動をより応援するための「力水」です。

仕組みを理解し、活動に活かしていきましょう。

しっかり活動できるよう、補助金の使い道については現場の工夫に委ねる、また会員数減少だけで減額しないなど、実情に合う「生きた使い方」ができるよう行政と話し合しましょう。

○ 新しい財源をつくろう、見つけよう

老人クラブの活動は、介護予防や見守りなど、介護保険制度で行われている「介護予防・日常生活支援総合事業」と同様の活動が取り組まれています。

また、環境美化や防犯・防災、世代間交流やさまざまな地域活動などでは、それらの分野をサポートする公的・民間の助成や補助があります。

これまでの老人クラブ補助金に加えて、地域の関係者と一緒に、広い視野で財源を探しましょう。

老人クラブを支えるヒント

◆ 老人クラブの活動が輝き続けられるよう、補助金の運用を考えよう

会員減少の時代、補助金要件が一律「30人以上」というのは現実的ではありません。自治体によっては、30人以下でも補助対象となっており、国も柔軟な運用を認めています（次ページの資料を参照）。

老人クラブへの補助は「国」「都道府県・指定都市」「市町村」が財源を負担しています。国は柔軟な運用を認めているので、「都道府県・指定都市」「市町村」の考え方で運用は変わります。

老人クラブの活動は、地域によってさまざまです。必要な活動に対し必要な費用が認められるよう、補助金の柔軟な運用や実情に合わせた条件緩和を行政とともに考え、働きかけましょう。（※）都道府県・指定都市老連への活動提起に連なる部分も含みます。

◆ 新しい財源の視野を広げよう

私たちのサロンや見守り活動は、行政が進める「高齢者福祉施策」そのものです。

今までの老人クラブ補助金だけでなく、地域のさまざまな機関・団体と連携・協働した取り組みを行うことで、介護保険（地域支援事業）の予算などを活用することも方法です。

また、環境や防犯・防災、世代間交流やさまざまな地域活動などでは、赤い羽根の共同募金をはじめ、これらの分野の取り組みを支援する公的、民間の補助や助成があります。老人クラブ補助金に加えて、地域の関係者と一緒に、広い視野で財源を探しましょう。

これらの財源を活かした取り組みは、老人クラブの会員だけではなく、地域の幅広い人々が参加することになります。地域の人々に老人クラブの活動や魅力が伝わり、老人クラブの応援団が広がります。

(資料) 厚生労働省 令和7年度 全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議資料

令和8年3月(抜粋)

③在宅福祉事業費補助金(高齢者地域福祉推進事業費)による単位老人クラブへの補助について

国庫補助の対象となる老人クラブの会員規模については、会員の高齢化等により会員数が減少して要件に満たないクラブが発生していることを踏まえて、実施要綱(下記抜粋参照)において既に弾力的な運用を認めているところである。実施要綱に記載されている、「その他特別の事情」については、これまでおおむね30人以上の会員により適正に運営されてきたクラブが、諸般の事情により会員が減少したものの、今後も継続的な活動が見込まれると市町村が認める場合には、引き続き補助対象として差し支えないので、「おおむね30人以上」という基準を一律に適用することのないようにご配慮願いたい。

(参考1) 老人クラブ活動事業の実施について(厚生労働省老健局長通知:抜粋)

1 組織について

イ 会員の規模

おおむね30人以上とする。

ただし、山村、離島などの地理的条件、その他特別の事情がある場合は、この限りではない。

なお、単位老人クラブは地域の高齢者の身近な通いの場であり、一度解散した老人クラブが活動を再開することは難しいと考えられるため、各都道府県におかれては、老人福祉法の規定も踏まえ、生きがいづくり及び健康づくり活動を担う都道府県老人クラブ連合会、市町村老人クラブ連合会、単位老人クラブを「地域の重要な社会資源」として認識していただき、ご理解の上所要の財源措置を行われたい。

また、各自治体において補助単価(上限)を設定している場合には、足元のエネルギー・物流価格等の物価高騰や当該連合会の運営状況(老人クラブ等活動推進員の確保の課題など)等も考慮の上、その適切な改定等にご配慮願いたい。

4.「どのような老人クラブでありたいのか」を話そう

～話し合いを通じて、老人クラブの未来を描く(名称について)～

ポイント

○ 名称変更は、議論することに意味がある

名前を変える話し合いなどは、あくまで一つのきっかけです。大切なのは、それを機に「自分たちはどのような活動を目指すのか」「どうすれば次世代(シニア層)に響くのか」という、老人クラブのあり方そのものを仲間みんなで話し合うことです。

法律上の名前にこだわらず、通称や愛称を使うなど、地域性や仲間の想いに合わせたやわらかい発想で進めましょう。

老人クラブを支えるヒント

◆ 地域に合った自由な名前で

「老人クラブ」という呼び名は、老人福祉法に規定され、国の要綱でも使われていますが、必ず老人クラブという名称がついていなければならないわけではありません。

すでに「シニアクラブ」などの名称に変えた地域もあれば、伝統を重んじる地域もあります。「県や市で統一しなければ」と固く考えず、新しい発想も含めて、自分たちの地域や会員の想いに合う名前を自由に考えてみましょう。

◆ 「名前」の話は「未来」の話

名称についての話し合いは、自分たちの活動を見つめ直す絶好の機会です。結論を急ぐ必要はありません。「どんなクラブなら楽しいか?」「どうすれば人が増えるか?」といった活動の中身の話とセットで議論することで、組織の若返りと活性化につなげていきましょう。

◆ 「愛称」でも OK

正式な名称変更には手続きが必要ですが、普段呼ぶ「通称」や「愛称」は自由に使えます。全国の仲間とつながる老人クラブの一員として連帯の誇りを持ちながら、若い世代が「入ってみたい」と感じるような、親しみやすい呼び名を工夫してみるのも良い方法です。

(公財)全国老人クラブ連合会 政策委員会 政策委員会幹事会 名簿 (任期:令和 7~8 年度)

政策委員会

(敬称略)

役職	氏名	ブロック名／都道府県・指定都市老連名
委員長	村上 光 夫	全老連副会長／東京都老連会長
副委員長	吉井 栄一郎	政策委員会幹事会 幹事長
委員	中村 美津子	全老連副会長／兵庫県老連会長
委員	松岡 時 子	全老連副会長・女性委員会委員長／秋田県老連副会長
委員	古都 賢 一	全老連副会長
委員	松島 紀 由	全老連常務理事
委員	兼 子 久	全老連理事
委員	正 立 斉	全老連理事
委員	本山 秀 治	政策委員会幹事会 副幹事長

政策委員会幹事会

役職	氏名	ブロック名／都道府県・指定都市老連名
幹事長	吉井 栄一郎	関東ブロック／東京都老連常務理事・事務局長
副幹事長	本山 秀 治	近畿ブロック／兵庫県老連専務理事・事務局長
幹事	五戸 秀 樹	北海道・東北ブロック／青森県老連常務理事・事務局長
幹事	大薮 定 信	関東ブロック／千葉県老連常務理事・事務局長
幹事	山崎 一 郎	東海・北陸ブロック／石川県老連常務理事・事務局長
幹事	赤野 政 治	中国ブロック／岡山市老連事務局長
幹事	兵頭 昭 洋	四国ブロック／愛媛県老連常務理事・事務局長
幹事	入 江 晋	九州ブロック／福岡市老連常務理事・事務局長

検討経過

日 程	会議名
令和 7 年 9 月 24 日(水)	第 1 回幹事会(オンライン開催)
令和 7 年 10 月 24 日(金)	第 2 回幹事会(//)
令和 7 年 11 月 19 日(水)	第 1 回政策委員会、第 3 回幹事会 合同会議(対面開催)
令和 7 年 12 月 24 日(水)	第 4 回幹事会(オンライン開催)
令和 8 年 1 月 21 日(水)	第 5 回幹事会(//)

わくわく元気！ 明日をつくる老人クラブ

仲間への呼びかけ

令和 7 年度 全老連政策委員会・幹事会 「老人クラブ活動の活性化に向けて」中間報告

令和 8 年 3 月 公益財団法人 全国老人クラブ連合会

みなさんの意見をお寄せください

この呼びかけを、みなさんの単位老人クラブ、市区町村老連、都道府県・指定都市老連で共有してください。そして、これからの老人クラブについて意見を交わしてください。

お寄せいただいたご意見等は、最終報告の取りまとめに活かしてまいります。

全老連では、みなさんからのご意見、事例をお待ちしています。

1.この呼びかけ(中間報告)への意見、感想

2.最終報告(来年予定)に紹介したい、みなさんの取り組み(事例)

3.ご連絡先（記入任意。なお事例を紹介いただく場合は掲載可否を伺うため必ず記入願います）

お名前

老人クラブ・連合会名

連絡先電話番号

記入した用紙は、FAX または E メールに添付して下記に送信してください。

(締切:令和 8 年 9 月末)

公益財団法人 全国老人クラブ連合会

FAX 03-3597-9447 E メール zenrou@zenrouren.com

右の QR コードをスマートフォンで読み取っていただくと、この用紙の質問と同じ記入欄が表示されます。



「最終報告」に向けたスケジュール

みなさんの意見を、最終報告の取りまとめに活かしてまいります

【令和 8 年 9 月まで】

- ・ 各ブロック、都道府県・指定都市老連、市区町村老連、単位クラブにおける意見交換の機会づくり、最終報告に向けた事例募集

【令和 8 年 11 月】

- ・ 第 55 回全国老人クラブ大会（鳥取大会）で、意見集約状況を報告

【令和 9 年 2 月】(来年)

- ・ 全老連 都道府県・指定都市老連代表者会議で最終報告(案)を提案

【令和 9 年 3 月】

- ・ 全老連理事会、評議員会で最終報告

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

3 すべての人に
健康と福祉を



10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



老人クラブの活動は、国連が推進する「持続可能な開発目標(SDGs)」につながっています